

加古川、高砂市消防 援助隊を派遣

加古川市消防本部の救助隊、救急隊、後方支援隊の計11人は、兵庫県のある消防援助隊の一員として17日未明に九州入り。被害の大きかった熊本市や益城町などで人命救助活動を行っている。交代要員の10人がこの日、加古川市を出発。高砂市消防本部も後方支援隊2人を派遣した。

また加古川市はこの日夕、災害時の相互応援協定を結んでいる熊本県菊池市の要請に応じ、飲料水のアルミ缶(500ミリリットル)約5千本、大人用と子ども用の



水、人 広がる支援の輪

義援金受け付けも開始

紙おむつ約3750枚、粉ミルク45・5kgを4トントラック2台に積んで現地に送った。

市役所であった出発式で、岡田康裕市長は「物資を運んでほしいという温かい声が市民から寄せられているが、今は輸送手段が限られており、お受けできない。今回は市の物資を迅速に届けてほしい」とドライバーに思いを託した。

また、日本青年会議所近畿地

「市の物資、迅速に届けて」

区兵庫ブロック協議会は、加古川市から飲料水を現地に発送。全13市のうち9割超は加古川青年会議所が用意した。松井隆文理事長(39)は「さまざまな職種の人々が協力して水を集めることができた」と話した。

義援金の受け付けも始まった。加古川市では市役所や市民センターなど11カ所で開催し、公民館でも19日から実施する。播磨町も19日から町役場やコミュニティセンターなど町内約10カ所で開催する。

(伊丹昭史、辰巳直之)

- ① 水をトラックに積み込む加古川青年会議所のメンバー
- ② 加古川市加古川町木村
- ③ 支援物資の出発式で、表示板などを受け取るトラック運転手ら

